

ミャンマー7回目の報告 2019・3月21日～31日

去年の11月スタディツアーに参加した後 近藤さんから連絡があった
以前ジャマハの現地事務所で家政婦として働いていたニュンピーさんより
洋裁を教えてもらいたいと依頼があったとの事 キリスト教の信者である仲間
ご婦人たちが数名希望している、若い子もいるらしい それだけの情報ではあるが
私もニュンピーさんはよく存じており 教える事に問題はない しかし詳しくは
聞いてみなければ何も分からない そこで3月のツアーに合わせて私もミャンマーへ行く
ことにしてチケットを取った

ミャンマーで1日ツアーと行動を共にして 翌日ツアーは旅立ち私は残る
その日は日曜日なので ニュンピーさんの協会のミサに参加する
少数民族のための小さな教会で2時間 何も分からない歌やお説教を聞く
終わってご婦人たちが挨拶に来てくれた たぶん洋裁に参加する意志のある方達
であろう あとで知ったことであるが ニュンピーさんのお兄さんが 信者さん方に
とても遠い所から来て下さっているのだから 皆さんは一生懸命学ばなければいけない
と話したらしい

教会の建物の隣にもう1軒建物があり 二つを屋根でつなげてある
このスペースがけっこう広い コンクリの床で舞台もある ここにミシンを置き
机・いすを置いてすぐに始められるという ミシンは夕方運ぶという事で
では明日9時から始めましょう と約束して 帰る

途中 現地事務所の大家さんであったルサンさんの家による
病気で退院したばかりなのであったが 会ってくれた 近藤さんからのお土産もあるが
通訳をお願いするためである ニュンピーさんに同行をお願いして どういう事情で
洋裁を教えて欲しいのかを聞く 私が誤解なく理解するためには通訳は必要である
ニュンピーさんの話によると 教会は小さく寄付も少なく貧乏である
洋裁を習って作品を作りバザーで売って資金にしたいとの思いからであった
今のところ職業にしようとは考えていないようである

私の本来の目的は子供達に職業訓練をして経済的自立に結びつくように
サポートするというものである

本来の目的とは異なるが 私とニュンピーさんとは友人である その縁で
教えましょうと話はまとまった

私の条件は二つ 信者以外の方が習いたいと希望したら受け入れる事
この洋裁のスキルを受け継いで後の若い人たちに伝える事
その中から職業に結びつく人も現れるかもしれないと思う

翌日 9時に来ると すっかりセティング済みですぐ始められる
ミシンは足踏みで古く壊れているかと思ったが 何とか動くし頑丈である
机も椅子も十分にあり 白板・マーカーもある
メンバーもじき集まった
一人ひとり名前・年齢・習いたい理由を書いてもらい名簿にする
理由としては 自分の服を作りたい 子供の服を作りたい 洋裁を学びたい
面白そうだからなどであった
16名ほどで始まる 内訳は 18歳2名 20代2名 30代5名 その他シニア
後日若い子が4名 10歳・13歳・23歳・25歳が加わりいっきに平均年齢を下げた

カリキュラムは 私が日本で開いている市民講座で体系づけている方法と
基本的には同じである 基礎のスキルを学び 簡単な作品から作り始める
並行して型紙も学ぶ ここまでは職業にするしないに関係なく基礎の部分である
これを彼女達の旺盛な好奇心と情熱でみごとにクリアーしてしまった 六日間である
丁寧さや正確さはレベルには遠いし ミャンマーでは手に入らない不可欠な
道具もある またあるのは知っているがどこで手に入れたらよいか分からない物
もある それらは次回通訳をつけて解決したい 通訳の目星もつけてある また若い子の
中にプロになりたい子がいないか通訳を通して聞いてみようと思う
若い子はのみ込みが早いし何度お直しを命じてもへこたれなかった それは
プロの資質の1つである 出来れば誰か一人でもプロになりたいと思う子がいたら
その時はアプローチも変わってくるが 私としては嬉しい
ツアーからヤンゴンに戻っていた近藤さんたちが 日本に戻る前に教会に
立ち寄ってくれた 彼女達の熱気に少なからず驚いたことと思う

簡単なブラウスをぎりぎりまで教え30日の午後私は教会をあとに 日本に戻った
メンバーの中に日本語N-5のレベルの子がいて彼女とスマホで連絡が取りあえる環境
が整い さっそく格安航空券を取り次回の連絡をした
次回は5月8日から13日と短期である 準備をして無駄のないカリキュラムに
したい
メンバーの中には縫える方もいて 二名を私のいない間の先生に指名した
次回までの間 何でもよいからミシンに親しんでいてくれればよいと思う
再会が楽しみである